

所属：医学部・医学系研究科 生命医科学専攻 ゲノム再生医学講座 発生再生医学

講師 大河原 剛 (おおかわら たけし)

カテゴリ) バイオテクノロジー、医学・薬学

- 《一言アピール》
- 解剖学の教員として「医学における解剖学の重要性」を訴えています。
 - 研究では、妊娠中のウイルス感染と生後の発達について調べています。

研究テーマ

Research Themes

■ 医学における解剖学の役割について

私は最近、医学教育において解剖学がおろそかにされているような気がしてなりません。医学の根幹である解剖学の大切さを講義・実習をとおして訴えていきたいと思ひます(下記「関連ホームページ」参照)。

■ 妊娠中のウイルス感染と生後の発達

妊娠中のウイルス感染は、胎児にさまざまな先天異常を引き起こします(先天性風疹症候群)。私は妊娠中のウイルス感染が児の情動や認知行動に及ぼす影響について研究をしています。



(三重大学全学シーズ集HPより)

報道

- 朝日新聞 三重版 「妊娠中 母親のウイルス感染 子の認知行動影響か」 2014年6月26日
- 産経新聞 三重版 「妊娠中のウイルス感染 子供の情動に影響も」 2014年6月24日
- 読売新聞 三重版 「妊娠中のウイルス感染 → 胎児の神経系に異常」 2014年6月14日
- 中日新聞 「母の病 胎児の脳に影響 ウイルスから神経異常」 2014年6月7日
- 中部経済新聞 「妊娠中のウイルス感染 子ども情動に影響可能性」 2014年6月7日
- 伊勢新聞 「妊婦のウイルス感染 出生児の情動に悪影響」 2014年6月7日
- 中日新聞 医人伝 「解剖を通し医の心伝える」 2014年4月29日
- Medical Tribune 「妊娠中のウイルス感染 生後のセロトニン神経の発達に影響」 2014年4月17日
- NHK視点論点 「医学における解剖学の役割」 2013年8月12日

著書・論文等

- Ohkawara T, Oyabu A, Ida-Eto M, Tashiro Y, Narita N, Narita M. Subtype-specific parafollicular localization of the neuropeptide manserin in the rat thyroid gland. *Acta Histochem.* (2013) 115(2): 190-194.
- 大河原剛、葛山貴士、江藤みちる、成田正明「胎内でのウイルス感染モデルによるセロトニン神経系への影響」第118回 日本解剖学会総会・全国学術集会 招待講演 2013年 高松市
- Ohkawara T, Oyabu A, Ida-Eto M, Tashiro Y, Tano K, Nasu F, Narita N, Narita M. Secretogranin II and its Derivative Peptide, Manserin, are Differentially Localized in Purkinje Cells and Unipolar Brush Cells in the Rat Cerebellum. *Int J Pept Res Ther.* (2011) 17(3): 193-199.
- Ohkawara T, Nagase H, Koh CS, Nakayama K. The amyloid precursor protein intracellular domain alters gene expression and induces neuron-specific apoptosis. *Gene.* (2011) 475(1):1-9.

(ほか、2枚目以降につづく)

関連ホームページ

- 三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野
http://www.medic.mie-u.ac.jp/develop_regener/
- NHKテレビ「視点論点」2013.8.12 オンエア
<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/164821.html#more>
- 三重大学 公式ホームページ インタビュー記事
<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2013/09/post-672.html>
- 三重大学教員紹介 <http://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/2639.html>

☆詳細は、HPをご覧ください。

著書・論文等 (つづき)

- Nakayama K, Nagase H, Koh CS, Ohkawara T. γ -Secretase-Regulated Mechanisms Similar to Notch Signaling May Play a Role in Signaling Events, Including APP Signaling, Which Leads to Alzheimer's Disease. Cell Mol Neurobiol. (2011) 31 (6): 887-900.

主な保有技術

- 一般的な組織学、分子生物学的手法

社会活動

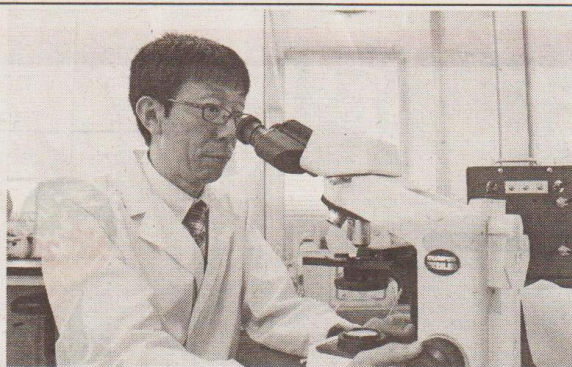
- 高大連携事業(スーパーサイエンスハイスクール)

所属学会

- 日本解剖学会
- 日本神経科学会
- 日本分子生物学会
- 北米神経科学会

<第三種郵便物認可>

ウイルス感染の影響を
研究する大河原剛講師



妊娠中にウイルス感染

子供の情動に影響も

妊娠中にウイルスに感染すると、理解力や感情のコントロールなど情動や認知行動に問題のある子供が生まれる可能性があることをラットによる実験で突き止めた。三重大(津市)の研究グループが日本小児神経学会の専門誌(電子版)に発表した。

三重大、ラットで確認

研究グループによると、母親が妊娠中、ウイルスに感染すると、白内障や難聴などの子供が生まれる可能性が高まることは知られていたが、情動や認知行動へ

の影響はほとんど分かっていなかった。グループの大河原剛大学院医学系研究科講師(発生再生医学)は「具体的にどの時点で感染すると危険な

のか明らかにし、情動や認知行動の障害に対する効果的な予防法を確立したい」と話している。

研究グループは、妊娠したラットに、免疫細胞が活性化する「感染状態」を引き起こす特殊な薬剤を投与。その母親から生まれ、人間の思春期に当たる生後50日のラットの脳にある海馬を調べたところ、セロトニンという神経伝達物質の量が、通常のラットに比べて40%以上少ないことが分かった。

セロトニンが少ないと情動や認知行動に悪影響を及ぼすことが分かっており、自閉症やうつ病もセロトニンの量に関係があるとされている。

↑ 産経新聞 三重版 「妊娠中のウイルス感染 子供の情動に影響も」 2014年6月24日